

世界ノータバコデー

タバコと心臓病

2018年5月31日

日本禁煙学会理事 松崎道幸・訳

世界保健機関とその協力組織は、毎年5月31日を世界ノータバコデー(WNTD)と名付けて、タバコ使用が健康などに及ぼす悪影響を知らせ、タバコ使用を減らす効果的な対策を進めることに力を注いできました。

世界ノータバコデー2018のテーマは「タバコと心臓病」です。このキャンペーンでは次の事実を広めることを目標としています。

- タバコ使用が世界最大の死亡原因である心臓病、脳卒中などの循環器疾患を引き起こすこと。
- 政府と一般の人々に、タバコによる心臓病を減らす効果的な対策と活動があること。

世界ノータバコデー2018は、世界中で毎年幾百千万人の命と健康を奪っているタバコ使用の蔓延を食い止めるための国際的取組—心臓病の死亡を減らし、ケアの質を高めるための Global Hearts and RESOLVE initiative、2018年に開催予定の非感染性疾患の予防と対策に関する第3回国連総会ハイレベル会合など軌を一にして実行されます。

タバコと心臓病のつながり

世界ノータバコデー2018では、タバコ使用が世界中の人々にどれほど心臓病を引き起こしているかを明らかにします

タバコ使用は、冠状動脈疾患、脳卒中、末梢循環器疾患の重要な危険因子です。

タバコが心臓病の大きな原因であり、その予防対策も解明されているのですが、一般の人々にはタバコが心臓病の主な原因であることがあまり知られていません。

タバコはどれほど心臓病の犠牲者を出しているか

心血管疾患(CVD)は、世界最大の死亡原因です。心臓病による死亡の12%がタバコ使用と受動喫煙によってもたらされています。タバコ使用は、高血圧に次いで CVD の 2 番目の原因となっています。

タバコは世界で毎年 700 万人の命を奪っています。それには受動喫煙による死亡 90 万人が含まれます。世界全体で 10 億人の喫煙者がいますが、その 8 割はタバコによる死亡と障害の影響を最も蒙っている低～中所得国に住んでいます。

世界保健機関の MPOWER 方針は WHO タバコ規制枠組条約(WHO FCTC)に沿ったものであり、各国がタバコ使用を減らしと非感染性疾患から人々を守る対策を講ずるために活用されます。

- **Monitor:** タバコの使用状況と対策の実施状況のモニター
- **Protect:** 屋内のパブリックスペース、職場、交通機関を完全に禁煙として受動喫煙から人々を守る
- **Offer:** 禁煙支援の提供(無償、無差別の禁煙勧奨アドバイス、国営無料電話相談など)
- **Warn:** タバコの危険性の警告(大きな警告画像表示付プレーン・パッケージ、タバコ使用と受動喫煙の危険性を周知させる効果的なマスメディア・キャンペーンなど)
- **Enforce:** タバコの広告、宣伝、後援活動の包括的禁止実行
- **Raise:** タバコ消費の減少につながるタバコ税の増税

世界ノータバコデー2018キャンペーンの目標

世界ノータバコデー2018 は次の目標を掲げています。

- タバコ使用が心臓病の主な原因である事を周知させる
- 心臓病予防のために、タバコ使用と受動喫煙を減らすことが大事であることを周知させる
- タバコ使用から心臓を守るために、一般市民、政府、諸団体が協力して活動を進めるきっかけを作る
- WHO FCTC の内容である MPOWER 方針の実行を強化するよう各国政府に要請する